



# 県政改革!

## 県議会レポート

〒274-0077  
船橋市薬円台 6-6-8 TEL/FAX047-464-9333  
E-mail nodatake@shunzankai.com



### ウクライナ支援

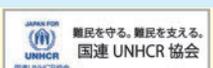


私は議会において、ロシアがウクライナに軍事侵攻したことに抗議し、ウクライナ国民への連帯の意を表明し、また我が国政府には在留邦人の保護と、ロシアへの強い制裁を課すことを求めました。その後も、船橋市内の朝の駅頭活動や、立憲民主党代表 泉健太衆議院議員を迎えての3月6日JR船橋駅におけるウクライナ難民支援募金活動等を通して、多くの皆様にウクライナ支援を呼びかけています。



3月6日(日)JR船橋駅での募金活動  
司会を務めた野田たけひこ千葉県議会議員

### ウクライナ難民支援募金で協力のお願い



今、世界の人々が個々に、できる範囲内で、ウクライナへの連帯を示すことが重要です。皆様におかれましては、募金へのご理解とご協力を賜れば幸いです

## 令和4年2月25日県議会・野田たけひこ一般質問のご報告

質問項目 \*アンコンシャス・バイアス \*ダイバーシティの推進 \*女性への施策 \*孤独・孤立 \*船橋市内の防犯 \*船橋市内の道路整備 \*宇宙ビジネスの創出・推進

### アンコンシャス・バイアスについて (無意識の思い込み・偏見)



自分の中にあるアンコンシャス・バイアスに気づくことは容易ではありません。しかしこれに気づき、この問題に取り組むことは、ダイバーシティや男女共同参画においても大変重要です。



Q アンコンシャス・バイアスの問題に、具体的にどのように取り組んでいくのか。県職員を対象としたアンコンシャス・バイアスに係るアンケート調査を実施し、県庁内の職場環境の改善を図るべきと思うがどうか。

A

男女共同参画を推進するためには、固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスといった意識を解消するための取組が重要であると認識している。県では、男女共同参画計画にこうした意識の解消を明記し、県民や企業を対象とした講演会や、小中学生を対象とした学校への出前セミナーを開催したり、またパネル展示を行うなど、企業や団体等と連携し、男女共同参画に対する理解を更に深めるよう取り組む。また、「千葉県女性職員活躍推進プラン」を策定し、研修を通じた女性職員の意識改革やキャリア形成支援、組織の中核となるポストへの積極的な登用を図るとともに、職員への研修において女性活躍推進の視点を取り入れるなど、職員の意識改革にも取り組んでいる。今後とも、こうした取組を継続するとともに、プランの見直しなどの機会をとらえて職員向けアンケート調査の実施を検討するなど、より良い職場環境づくりに努める。

総合企画部長



要望

全庁挙げてアンコンシャス・バイアスという「心の壁」を壊し、ダイバーシティを推進するよう要望する。

### ダイバーシティの推進について



人には人種、国籍、宗教、年齢、性別、障がい、性的嗜好、学歴、価値観等の様々な違いがあります。この一人ひとりが持つ違い、すなわち多様性を受け入れることをダイバーシティといいます。

昨年の「世界幸福度ランキング」で第1位となったのはフィンランドで、日本のランキングは56位です。国内総生産(GDP)や、社会保障制度、健康寿命等は、さほどの違いはありませんが、順位の違いを決定づけたものは、「人生の自由度」や「他者への寛容さ」のある社会か、どうかです。つまり多様性を尊重し、他者への寛容さを持つこと、すなわちダイバーシティを推進させることは、女性や障がい者のみならず、より多くの人たちの幸福にも繋がることを示しています。



Q 多様性を認め合い、誰もがそれぞれの個性と能力を発揮できる、寛容な社会の実現に力を入れるべきではないか。また、ダイバーシティの推進は、多くの人たちを幸福にする可能性があると思うがどうか。

A

性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として尊重され、社会に参画をし、誰もがその人らしく、生きていくことができる社会づくりは、元来行政として求められてきたことであり、県政の土台であると認識している。  
ダイバーシティの考え方を社会全体に浸透させるため、まずは、行政を担う県職員一人ひとりの理解を一層深めていく。オリンピック・パラリンピックの開催を通じて、ダイバーシティへの理解が一層推進されたところであり、社会全体の活力、創造性を高めるとの考えに立ち、今後、ダイバーシティ推進に取り組んでいく。



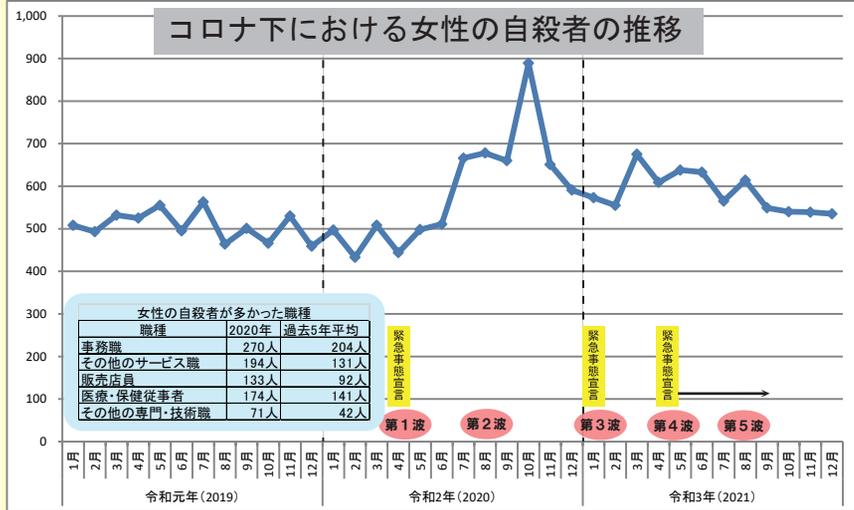
要望

ダイバーシティの推進は、誰もが生活の満足度を高めるという恩恵、すなわち、幸福をもたらすものだ。様々な壁を乗り越えて、ダイバーシティの推進に尽力するよう要望する。

## 女性への施策について

コロナ禍では、女性の失業、DV被害、そして自殺者を急増させています。それを重くみた国連は、各国政府に対し「女性及び女兒(女の子)をコロナへの対応に向けた取組の中心に据えるよう」と、緊急メッセージを発しています。

そして、国も、国が地方自治体や民間企業と協力して、女性の深刻な状況の解決に取り組むよう、緊急提言をしています。



## 自殺の要因となる複合的な連鎖

- 女性が多い非正規労働者の雇用環境が悪化
- 休園や休校による家庭内環境の変化 ○配偶者の在宅勤務

経済的問題や勤務問題、DV被害、育児・介護問題

追い込まれて、うつ病などの精神疾患を発症



国連の緊急メッセージや国の緊急提言に応え、女性の深刻な状況の解決のために、千葉県も果敢に取り組むという強い意志を示すべきではないか。

総合企画部長

各種相談支援、自殺対策の推進、再就職等に向けた就労支援などを実施している。また「千葉県のちを支えるSNS相談」の開始や、オンデマンド配信による再就職支援セミナーの実施など、取組の充実を図っている。

さらに県民が、このような相談や支援に関する情報を容易に得ることができる「相談窓口・支援情報」サイトを、県ホームページの「新型コロナウイルス感染症に関する情報」サイトに開設した。今後も、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行い、安全・安心に暮らせる千葉県に取り組んでいく。

要望

女性への施策や支援策が有効に機能しなければ意味がない。たとえば、生活に困窮し、その資格があるにもかかわらず、生活保護を申請しないのはなぜか。それは、社会の差別や偏見、また生活保護を受ける、自らを恥じるという「心の壁」があるからだ。行政は、そのような「心の壁」を壊し、女性への施策を有効に機能させるよう要望する。

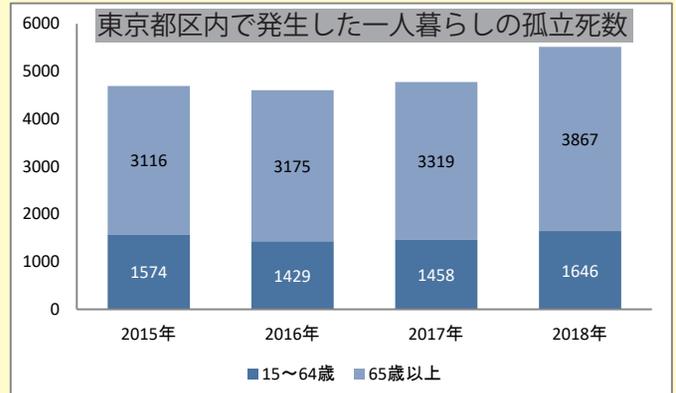


## 孤独・孤立について

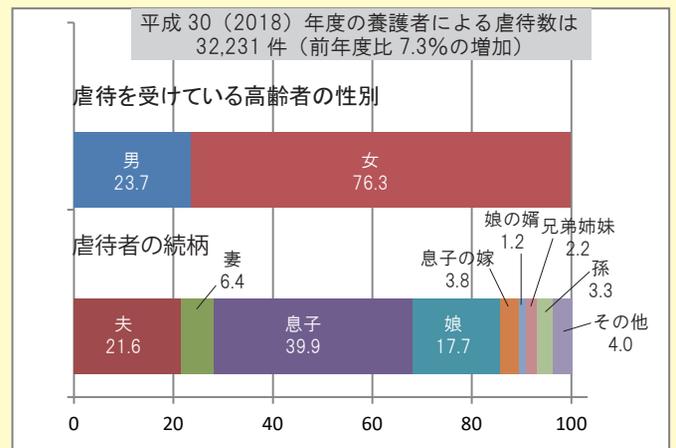
昨年度の内閣府の調査では、ほぼ3人に1人の60歳以上の男性が「家族以外に相談あるいは世話をし合う親しい友人が誰もいない」と回答しています。

また、一人暮らしの孤立死や家庭内で介護されている高齢者が家族から虐待されるなどの事例が頻繁しています。

特に高齢男性の孤独・孤立の問題は深刻で、長い人生を幸福に、有意義に過ごすには、早いうちから職場以外の社会と繋がりを持ち、仕事以外の生きがいを見つけることが重要です。



国交省「(参考) 死因別統計データ」参照



内閣府「令和2年版高齢社会白書」参照



本県における高齢男性の孤独・孤立に実態調査をすべきではないか。また、高齢男性の社会参加や社会との繋がりを促すような取組を強化すべきと思うがどうか。

健康福祉部長

高齢者の社会参加等の状況には、市町村が介護保険事業計画の策定の際に実施する「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」などを通じて把握をしている。男性高齢者の孤独・孤立には、調査項目や分析方法を工夫するなどして、市町村と連携しながら実態把握に努めていく。また県では、生涯大学の運営や老人クラブ活動への支援等に加え、市町村に対して、地域の「通いの場」や体操教室などを開設を働きかけ、今後は実態把握の結果等をもとに、高齢者の社会参加に向けた取組の一層の充実を検討する。

要望

内閣府の調査によると、社会参加や社会との繋がりを重視する高齢者は、そうでない高齢者に比べ、生活の満足度が高いという報告がある。そうであるならば、老老介護における虐待や孤立死を少なくするために、また高齢者の生活の満足度を高めるために、さらには高齢者が幸福を実感できる社会をつくるために、高齢者の社会参加や社会との繋がりを促すべきだ。核家族が進む高齢社会の中で、社会とのつながりは、高齢者が幸福を実感するための必要不可欠な社会資本である。県は、その社会資本の整備に尽力するよう要望する。



東日本大震災から11年となりました。多くの方々が避難所生活を余儀なくされました。避難所は、体育館やホールなどの広いスペースを大人数で使用します。赤ちゃんから高齢者までさまざまな年代の方が過ごしています。中には、国籍が違う方、持病や障がいのある方、介助やサポートが必要な方もいます。非常時とはいえ、避難所生活は大きなストレスを抱えます。このような時こそ、多様性を受け入れ、他者への寛容性が必要ではないでしょうか。そのためには、日ごろから無意識の思い込みや偏見、アンコンシャス・バイアスという『心の壁』に気づき、ダイバーシティを推進しなければなりません。また、日本政府は、ウクライナ難民の受け入れを言明しました。

人種、国籍、宗教、性別等々、多様な人々が互いに認め合って生活し、より多くの人々が幸福を感じられる社会を目指して、今後もしっかりと取り組んでまいります。

野田たけひこ



令和4年2月25日千葉県議会議場・一般質問